

オリスは絶滅危機に晒されているサメを追い続けています。

スイス時計会社のミッションはサメ保護プロジェクトと連携して世界中の海を守ることです



オリスは Pelagios Kakunjá と共にサメ保護プロジェクトに取り組んでいます

サメは **40 年以内**に絶滅する可能性があります。過去 **50 年**以上に渡り世界中のサメの数の減少を目の当たりにしている海洋保護専門家たちがそう予言しています。

その内の **1 人**が海洋探検家であり、自然保護活動家であるジェローム・デラフォスです。オリスはジェロームと非営利団体 Pelagios Kakunjá と共にサメ保全プロジェクトに取り組んでいます。

「最近では昔よりもサメの数は少なくなっていました」。とジェロームは言っています。「**40 年**経たずに、私達はサメの絶滅に追いやってしまうでしょう。彼らを救う唯一の方法は彼らの美しさを見ることです」。ジェロームはプロのダイバーとして **20 年**に渡り世界中のサメとイルカの個体群を観察し、フランスのテレビネットワーク Canal+ と Travel channel で放送された数多くのドキュメンタリーを制作しています。



このプロジェクトは絶滅危機に晒されているスカラップドハンマーヘッドシャークの移住パターンを追っています

Pelagios Kakunjá のミッションは上位海洋捕食動物の移住経路と動きを理解する事です。最新のプロジェクトで絶滅危機に晒されている東太平洋のスカラップドハンマーヘッド（アカシモクザメ）種の移住ルートについてより深く知ることができるでしょう。自然保護の国際組合によると、世界におけるスカラップドハンマーヘッド個体群数は過去 30 年で最大で 90% 減少しています。

プロジェクトに参加している科学者達は、**5 匹**のサメにオリスの資金援助による MiniPAT サテライト発信機を装着させる予定です。各発信機は **6~9 ヶ月**間追跡し、自動的に決められた日にリリースされ水面に浮上し、集められたデータは人工衛星に送られます。このデータは科学者達がサメについてより理解する事ができ、その結果漁業活動について政府のエージェントにアドバイスが出来るようになります。給餌時にネットに絡まる可能性のある漁業はサメへの最大の脅威の一つです、

この遠征は Pelagios Kakunjá の海洋保護ディレクターであり、保護活動家である Dr. ジェームズ・ケチャム、サメのスペシャリストで世界最大のホワイトシャークをフィルムに納めた Dr. マウリシオ・オヨス、記録破りのフリーダイバーであり、水中カメラマン フレッド・バイルによって指揮される予定です。

オリスはジェロームと共に Pelagios Kakunjá の最新のミッションをサポート出来る事を嬉しく思っています。「これは私達にとって世界の海を改善する重要なミッションです」とオリスの CEO であるウーリック W・エルズックは語っています。「オリスは海洋保護と、スカラップドハンマーヘッドのような種類のサ



スカラップドハンマーヘッドシャークには
オリスの資金援助による高性能追尾装置が
ついたタグが付けられる予定です

メを絶滅の危機にさらしている人間の影響力を覆すことに入力
しています、私達の願いと信条は **Pelagios Kakunjá** のミッシ
ョンが成功するよう手助けをする事です」。

ジェローム・デラフォスは「**Pelagios Kakunjá** とチームを代表
して、この必要不可欠なミッションの後ろで寛大なサポートを
してくれているオリスにとっても感謝している」とコメントしてい
ます。サメ達を追跡することで、私達は彼らの移住ルートにつ
いて極めて重要な情報を得ることができ、次に、この発見はサ
メと彼らの環境を守る新たな国際的な基準へと導いてくれると
期待しています。

Pelagios Kakunjá, についての詳しい情報は下記 URL をご参照下
さい。
pelagioskakunja.org.